

伊賀市内の小学校では、様々な環境教育を授業や特別活動などで行っています。今回は、上野西小学校に訪問して、授業を通しての環境学習の取組をうかがってきました。

上野西小学校の4年生は、「大人になった時どんな世の中にしたいか」をテーマにSDGsの学習を進めています。

この学習を進めるにあたり、子どもたちからごみが無い、ケンカや戦争がない、いじめがない、コロナウイルスなどがなくマスクがいらない、きれいな水が飲めるなど様々な未来像が出されました。このことが、子どもたちの間にも浸透しつつあったSDGsと重なっていることで、みんなでSDGsを意識した勉強を進めるようにしたそうです。

環境学習としては、ごみの問題や飲み水の問題を特に取り上げています。市内のごみ収集を行っている業者さんに学校に来ていただいて、ごみ収集車を見せてもらいながらお話を聞いたり、自分たちがごみを減らして(なくて)いくためには何をしなければならないかを考えたりしました。また、きれいな水が自分たちに届くまでの仕組みを、10月に三重県環境学習情報センターに行って実験などをしながら学習する予定になっています。

この学習で大切にしていることは、今、自分にできるとはなにかを常に考えさせることです。例えば、ごみの学習や世界の様子をJICAの職員さんから話を伺った学習の後には、「物を大切にすること」を意識するようになりました。教室の紙ごみがごみ箱ではなくリサイクル用の箱に入れられるようになったり、給食の食べ残しをなくそうと努力しほとんど残食が出なくなったりしました。さらに、子どもたちが家でこの学習の話をしたり、授業参観で様子を見てもらったりしたことで、家族で環境を意識するようになってきたという声を保護者からいただいているということです。



「SDGsは、環境問題だけのゴールではありません。様々な問題に取り組むことで、子どもたちは、今自分たちにできることをしっかり考えて、行動にうつしているんです。」と、語られる4年生の先生方の笑顔を見せていただきました。

### コラム

## エコな小学校 「こんにちは」

上野西小学校

この地球上に生息する動植物は、それぞれが支えあって生きていますが、その環境は近年著しく悪化しています。「伊賀市環境保全市民会議」は、環境学習会や環境ツアーを通じて、これらの直面する環境問題や現状を再認識し、また、様々な活動を通して「自然環境を大切にすること」の輪をひろげていくことという市民団体です。

いろいろな事業のうち、ご自分にあったものにぜひ参加いただければ結構ですので、どうぞお気軽に事務局へお問い合わせください。



あなたのご参加をお待ちしています。お問い合わせは…

## 伊賀市環境保全市民会議事務局

〒518-8501 伊賀市四十九町3184番地

TEL 22-9624 FAX 22-9641

発行責任者：伊賀市環境保全市民会議

※本誌バックナンバーが若干残っています。ご希望の方はご来庁くださるか、84円切手を貼った返信用封筒を同封のうえ、事務局までお送り下さい。

## 伊賀市環境保全市民会議

# しぜん

# No.78

令和4年(2022年)11月1日発行

豊かな恵みのなかで、  
人と自然が共生するまち伊賀

回覧



## 市民夏のにぎわいフェスタ

去る8月20日(土)に3年ぶりに開催されました「市民夏のにぎわいフェスタ2022」に参加しました。

今回はこれまでの水生生物の展示をしていた『伊賀の水族館』から、新たな試みとして、廃材を使った工作を行う事で、廃棄物を減らす意識を高めることを目的とした『ペットボトル風鈴作り』を出展しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、必ず検温、手指の消毒済みであることを確認し、人が長時間とどまらないように気を付けました。

用意していた材料が無くなるほど多くのお客様にお越しいただき、こどもたちに作品と夏の思い出作りをしていただきました。

身近なものを使ってもものづくりができる事を、こどもたちに知ってもらおう事が出来て良かったとアンケートに回答をいただきました。



## 令和4年度の活動方針

- ① 「環境ウォッチング」「環境学習会」「自然調査委員会」などによる伊賀市内の環境に関わる調査研究
- ② 「環境ツアー」「目で見る環境講座」などの視察
- ③ 希少生物ならびに生息環境の調査や保護(ビオトープの整備等)
- ④ ポイ捨て防止等の環境保全に関する啓発
- ⑤ イベントを活用した環境教育活動の実施
- ⑥ 伊賀市環境保全啓発ポスターに市民会議会長賞として表彰
- ⑦ 「クリーンウォーキング」の実施
- ⑧ 伊賀のRDB改訂検討及び三重県RDB調査への協力
- ⑨ 会報「しぜん」や市広報を利用した情報発信(年2回)
- ⑩ その他

昨年の4月、日本国政府が2050年にカーボンニュートラルを確実に目指すため、2030年度の温室効果ガス排出目標値を、2013年度比26%削減から46%削減に引き上げることを発表し、国内外での脱炭素に向けた動きが活発化している中で、今年の2月にロシアのウクライナ侵攻が開始され、戦争行為に伴う原油価格の高騰、チェルノブイリ原子力発電所への攻撃、占拠といった環境問題に係る関心はより高まっていると言えます。

昨年度の当会の活動も、コロナウイルス感染拡大防止のため、なかなか思うように開催することはできませんでしたが、そのような中、三重大学の朴先生に「持続可能な伊賀創生とSDGs」と題して、ご講演いただき、それを「しぜん」の記事として、広く市民のみなさまに情報発信を行いました。

講演会の中で、私たちは国の政策をしっかりと見据えるとともに、国ができないなら、県の取り組み、それでもだめなら市の取り組みと、グローバルからローカルに見ていくことが大切なのだということ等を学ぶことが出来ました。

今年度は、世界中で課題となっている脱炭素について、会員一人ひとりが、現状を知り、その内容の啓発に努めることで、多くの市民の方に温室効果ガスの削減に向けた取り組みの必要性を認識してもらうことを中心に活動をしていきます。

また、従来から取り組んでいます、地域の自然保護活動に関する事業、特に策定から14年以上が経過している「伊賀のレッドデータブック」に係る現状把握のための調査や、その他環境問題に係る学習会なども実施していきます。

このようなことが実現できるためにも、次の点を中心に活動を推進してまいります。

### 市民会議では、今後、次の行事を予定しています。

|                |                                                                                                     |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境ウォッチング       | R5年1月(予定)<br>内容:バードウォッチング 場所:未定                                                                     |
| クリーン<br>ウォーキング | 【第1回】R4年12月3日(土)午前9:00～(1時間程度)<br>場所:ゆめが丘からコリドールロードに抜ける山道                                           |
|                | 【第2回】R5年3月4日(土)午前9:00～(1時間程度)<br>場所:久米川周辺                                                           |
| 環境セミナー         | 【第1回】R4年12月11日(日)午後1:30～ 内容:地球温暖化に伴う異常気象<br>講師:三重大学大学院生物資源学研究科教授(理学博士)立花義裕<br>場所:ハイトピア伊賀 5階 多目的大研修室 |
|                | 【第2回】R5年2月初旬<br>内容:紙すき講座 場所:伊賀市環境センター体験研修室                                                          |

詳細が決まりましたら、改めて募集させていただきますので、ぜひご参加ください。  
また、日程については(下記含む)予定であり、変更する場合がありますのでご了承ください。  
集合場所など詳細は事務局までお問い合わせください。多くの皆様のご協力をお願いします。



## 食 品 ロ ス について考えてみよう

### 《食品ロスとは》

食品ロスとは、本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品のことを言います。  
日本の食品ロスの量は、約522万トンと推計されています。そのうち事業系食品ロスは約275万トン、家庭系食品ロスは約247万トンとなっています。  
国民一人当たりの食品ロスの量は、年間で約41kg、1日当たりになると約113gで、お茶碗一杯分の量に相当するそうです。(令和2年度、農林水産省・環境省)

### 《食品ロスが引き起こす問題》

食品ロスは、もったいないというだけではなく、様々な問題につながります。

#### 「環境問題」

食品の製造、輸送、販売、廃棄のための運搬や、焼却などに多くのエネルギーを必要とするとともに、二酸化炭素を排出することにより地球温暖化につながります。

#### 「貧困問題」

世界の9人に1人(約8億人)が飢餓に苦しんでいる一方で、国際連合食糧農業機関(FAO)の報告によると、世界の食料生産量の3分の1にあたる約13億トンの食料が毎年廃棄されているそうです。

#### 「食料自給率」

日本の食料自給率は約37%で、先進国では最低水準ですが、多くの食料を海外から輸入しているにもかかわらず、多くの食品を捨ててしまっているのです。



令和3年度三重県食品廃棄物細組成分分析調査において  
ごみ集積所にて仕分けされた賞味期限切れで廃棄された食品の一部  
(津市 農村部)

### 《食品ロス削減に向けて》

家庭での食品ロスを削減するための取り組みを紹介します。

- 冷蔵庫の中身を整理し、買物前に在庫を確認することで必要最低限の買い物を心掛けましょう。
- 期間限定品や安売りでの買いすぎに注意し、鮮度を保つように適切に保存しましょう。
- お料理の際は、「賞味期限」と「消費期限」の違いを意識し、残っている食材から使い切り、おいしく食べられる量を作りましょう。  
※「賞味期限」=おいしく食べられる期限  
※「消費期限」=安全に食べられる期限(期限を過ぎたら食べないほうがよい)
- 野菜の皮は過剰に除去しないようにしましょう。
- 料理は食べきる心がけましょう。
- 外食の際は、まとめて大量に注文せず、こまめに注文しましょう。
- 苦手な食べものが入っていないか、どのくらいの量が注文時に前もって確認しましょう。
- 非常時の備蓄食料は、普段使いし定期的に買い替えましょう。